

安全ブロック

補足マニュアル

重要：当マニュアルが付属する安全ブロックは、ANSI/ASSE Z359.14-2012 に適合しています。同封された安全ブロックの取扱説明書に記載の要求事項よりも当マニュアル記載の内容が最新の情報になります。

ティー・アイ・トレーディング株式会社
〒143-0016 東京都大田区大森北 2-9-14 二島ビル 2F
Tel: 03-5763-8177 Fax: 03-5763-1052
Web サイト : <http://www.ti-trading.co.jp>

1.0 スコープ

ANSI/ASSE Z359.14-2012 は、墜落防止システム中で、トレーニングを受講した作業者（重量 59～141 kg）によって使用される安全ブロックについての規格です。※Capital Safety 社が取り扱う安全ブロックの中には 190 kg が最大許容重量の製品もあります（OSHA 規格に適合したもの）。

- 1.1 安全ブロックのタイプ：表 1 をご参照下さい。
- 1.2 安全ブロックの区分：性能により以下の区分に分けられます
- ・クラス A：最大墜落距離 610 mm、平均墜落防止荷重 6kN 以下
 - ・クラス B：最大墜落距離 1372 mm、平均墜落防止荷重 4kN
- どちらのクラスかは安全ブロックのラベルに記載してあります。

表 1 安全ブロックのタイプ

安全ブロック	作業が主に安全ブロック直下での場合で墜落距離を0.6m以内に抑える時に使用
安全ブロック(救助アシスト機能付属)	安全ブロックに救助アシスト機能が付属したもの
安全ブロック(水平用)	水平方向に安全ブロックを使用した場合に用いる。墜落距離は最大1.5m。

2 点検

- 2.1 点検手順：安全ブロックの取扱説明書をご参照下さい。
- 2.2 点検頻度：使用前の点検は、使用者または墜落の際救助に当たる人が実施します。定期点検は、使用者以外の専門知識を有する人物が実施して下さい。専門知識を有する人物は表 2 を参考に点検スケジュールを決定して下さい。

表 2 点検スケジュール

使用タイプ	使用目的	使用環境	点検頻度
～低頻度	救助、閉鎖的空間、工場メンテナンス	良い保管環境、通常屋内まれに屋外で使用、室温、正常な環境	毎年1回
中頻度～高頻度	交通、住居建設、設備、倉庫	適切な保管環境、屋内屋外で使用、様々な温度、正常または埃っぽい環境	半年または毎年1回
毎日	商業用不動産建設、石油、ガス、鉱山	過酷な保管環境、長期間または毎日の屋外での使用、様々な温度、汚れた環境	四半期または半年1回

3 使用中止について

- 3.1 墜落防止後：墜落防止後は使用を中止して下さい。「使用不可」等の印をつけ、取扱説明書の指示に従って下さい。
- 3.2 メンテナンス：メンテナンスが必要な場合、「使用不可」等の印をつけ、取扱説明書の指示に従って下さい。